

培文會報

京都市左京区吉田本町  
京都大学工学部  
電気工学科教室内  
洛友会

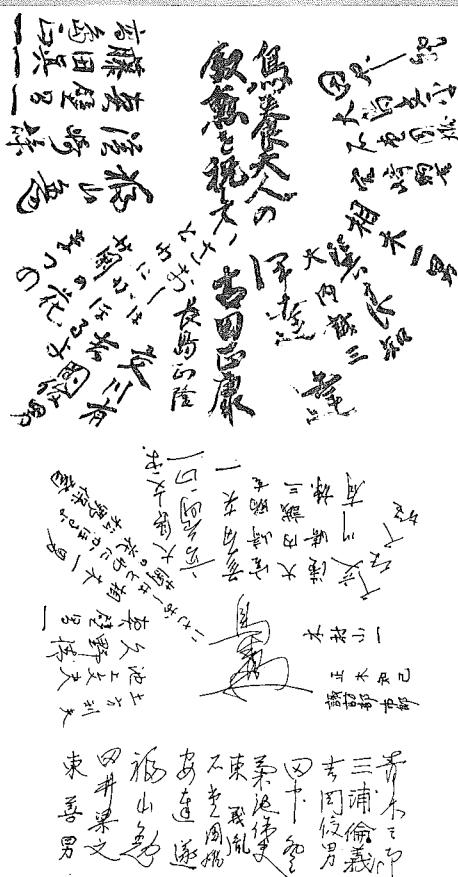
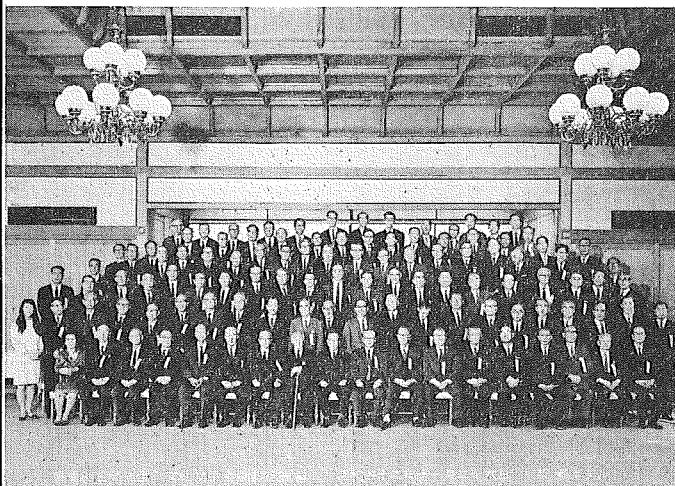
京都関係出席者

烏養先生文化功勞者顯彰祝賀會

文化功労者の顕彰式が東京虎ノ門の国立教育会館で行なわれ、文化勲章受賞者四人、文化功労者六人のうち鳥養先生が文化の向上に尽くされたご功績に対し、榮譽ある顕彰を受けられました。

洛友会は、京都と東京に於て祝賀会のご榮誉を祝し、左記により（東京）昭和四十二年十一月五日  
（京都）昭和四十二年十一月二十六日正午より、都ホテル出席者を代表し、芦原義重氏の祝辞があり、立食の宴会は、終始なごやかな空気のうちに進行なれ、午後三時散会した。

(明44) 大森丙 (明45) 古田正康 (大2) 宮崎駒吉 (大3) 長島正隆 (大4) 真崎尚志、中谷潔 (大6) 大西冬藏 (大7) 乙葉真一 (大8) 高見祥平 (大9) 西村弁造 (大12) 東義綱、松野保登 大内誠三 (大13) 三浦倫義、田中登、異良知、菊池保夫、高島正一 (昭2) 交川有 (昭3) 浜崎諒、福山勉、諭訪部市郎 (昭4) 久野清、安達達 (昭5) 青遂、東善男、伊達達



木三郎・眞壁昌一・吉岡俊男  
雄、畠田真一、吉岡俊男  
(昭8) 田井梁之、久保久雄  
(昭15) 相木一男  
(昭17) 土方利夫  
(昭19) 木村小  
(昭21) 菅沼春幸  
(昭22) 池上

一、鳥養先生文化功勞者  
顯彰祝賀會……(1)  
二、隨想……高柳与四郎……(2)  
三、隨筆、地球三十三番地が  
出来た次第……宮地冬樹……(2)  
四、関西支部旅行會……(3)  
五、中部支部例會……(4)  
六、十四日会 第二〇〇回  
記念大會……(4)  
七、大六、七年卒業50周年  
記念信友会集會……(4)  
八、十四日会伊勢志摩大會……(5)  
九、茨城地区洛友会總會……(5)  
昭十七年、卒業25周年  
(6)

# 隨想

高柳興四郎

(大正三年卒洛友会顧問)

私は大正三年から小倉市の九軒に二十二年間、戸畠の火力発電所建設のために西部共同火力に三年間、日本発送電に五年間合わせて三十年間電気関係業務に従事しましたが、一番長い時間は火力発電所に過ごしました。昭和七年竣工したばかりの小倉火力発電所で所長として就任しましたが、今日盛んに取り上げられている公害問題を、その当時経験しました。

同発電所は当時日本内地のトップを行って、二万五千キロ（メトロボリタンガス製）二基のタービン発電機と、微粉炭燃焼、スラッギングタップ、ボイラ（バブコックウイルコックス製）四基との設備でした。

現今の火力発電の初期のもので、世界の有名なボイラーメーカーとして知られたバブコックでも、メカニカルドロフトだから高い煙突は必要としないと考えて、建て物の上に極めて低い煙突が口を開けていただけでした。いよいよ運転開始をしてみると、北風の吹く日には近くの小倉駅附近に媒煙が吹きつけ、皆垂硫酸ガスになやまされ、問題となりました。何しろ折尾の高尾炭は四五〇〇カロリー、硫黄の含量五パーセントといつた代物を半分近く使用していたので、垂硫酸ガスの濃度も大したものですから、堪ったものではありません。大急ぎで出来る限り煙突を高くしましたが、建て物の関係で余り高く出来ず、問題の解決になりません。

そこでサイエンスアブストラクトを引っ張り出し、欧米の雑誌をあさり調べてみましたが、英國や米国でも、それぞれ調査委員会を設けて研究してみたが、良案が見付からず、結論としては、高い煙突を造って、遠方へ飛ばすより良法は無いというのです。ところがどの位の煙突の高さにしたらよいか、問題が残りました。

色々外国雑誌を読むうちに、建て物によるエッディカーレントは建物の高さの二倍半になると、その影響を受けないという結論が出ていたので、煙突の高さを建て物の高さの二倍半にすれば、煙突から出てくる媒煙の方に向かって遠く飛ばして、被害問題を或る程度解決出来るのではないかと考え、小倉発電所の一つの基準になつたと思っています。

# 隨筆

## 地球三十三番地 が出来た次第

宮地冬樹

(昭和二年卒洛友会四国支部長)

昭和三十六年七月高知ロータリークラブの新年度役員の改選が終わって初理事会が開かれた席上、当年度の事業計画が各理事から、それ提案されました。私が社会奉仕委員長を承つておる関係上何か案を出さねばならぬ羽目となり、偶然過去のヒントが浮び上がつたのをそのまま申し出ましたところ、全員のご賛同を得て提案者たる私に推進方一任された次第です。それは

東經一三三度三分三三秒

北緯三三度三分三三秒

の地点が高知市弥生町付近の江ノ口川の中にあるのでこれを標示する塔を最寄りの堤防上に建てよう

といふものであります。

学校を出て四国の電気事業に職を奉じて以来その工務局、主として水力発電、送变電、給電関係を担当し、就中送電と給電に従事した期間が長かったわけで送電線関係では絶えず当時の陸地測量部、現在の国土地理院の五万分の一、経緯度は時々見ることがあったの

と、気象通報の台風の動きは一応

高知市は東經一三三度半、北緯三度半と記憶して居て、台風の中心経緯度との相対的関係を計つていたので、この経験から三の数字を多く並べたならば面白いと考えていたのです。それで

(一)非常に覚え易いこと、一度聞いたなら絶対に忘れぬユーモラスな数字の地点であること、三の羅列で純学術的?とは申し難いが、ユーモアのある点ロータリークラブの仕事として誠に適切であると

高知へ視察に来られた電力界の大先輩、当時の北海道電力会長、現電発送裁藤波收氏からおほめの言葉を頂戴しました。

(二)天文學、氣象學等科学知識の高揚、民衆化を少しでも計りたい。ご承知のとおり高知は台風の銀座通りで有名な第一、第二室戸台風もあり、豊予海峡通りもあり、今

年こそ無台風で西日本を始め各地で干魃で大困りですが毎年二三回はこれが接近して待望の雨と好ましからざる被害をもたらします。

テレビの大きな気象図では詳細は判明しませぬ(テレビの気象解説

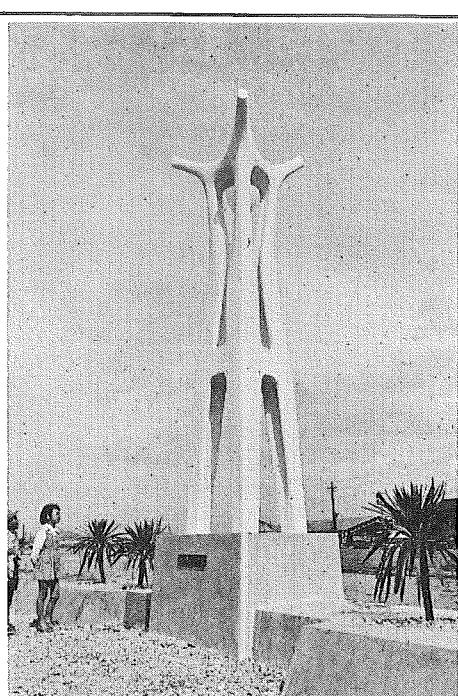
感するものである)ラジオで台風の位置を知らせて貰つても自分の位置を知らないのでは役に立ちません。

(三)宇宙時代には自己の居住地の経緯度を知つておく必要がありま

す。われわれの普通の者の経緯度に関する常識は旧暦太國境線は北緯五〇度、南北朝鮮国境は三八度、これが標準時の子午線は明石海峡を通つている東經一三五度、水沢には緯度観測所がある。又最近はビールの広告にはウマイ独逸のミーンヘンと同緯度北緯四十五度の北海道産とますこの辺でしよう。

人工衛星の飛び交う宇宙時代には入り経緯度で表示される無名の地点から衛星が発射されておることや、海外渡航者が多くなつた今日、相対的に自己の地球番地を知つておくべきでしょう。経緯度のことをズブの素人に判り易く説明するにはいわば地球の番地ですねといいました。處、高知の新聞記者諸君は直ちに地球三十三番地標示塔と呼称し始めました。

製紙会社の排水と市内の下水の集りで悪水の臭気の高い江ノ口川に臨み、旧廢介焼却場跡や瓦斯タンクにも近い高知市の場末の町にあります。現代語の公害の真中心地にありますので地域美化、国土愛護、新觀光資源開発ともなり電



氣屋であつたから水銀灯もつけて  
防犯灯にもなると考えて提案した  
次第です。

ローテリアンからもいわれ説明は  
しましたが仲々納得行きかねた次  
第です。

ある屋久島の少し北の海中、東経一三五度〇分〇秒北緯三五度〇分

四度〇分〇秒は北海道網走付近にあります。

ーストラリヤポートリンカーンの西北の海中。

# 見学旅行会

電所と関西電力(株)美浜発電所を見学し、往復は、五台のバスで琵琶湖畔の晩秋の景色を心行くまで観賞した。出席者は家族を含め百二十七名という記録破りの盛会で、阪急バス、関西電力、日本原子力発電所の方々、及び小森、江森その他の幹事の方々の一方ならぬ

た。デザイン並に施工監督は高知大学助教授秦泉寺正一先生を煩わしました結果、三角形の三脚の上に水銀灯を配し全体を新時代にマッチした柔かい曲線で白色仕上鉄筋コンクリート作りとし地上五米の塔を堤防上に建てまして昭和三十七年五月十五日完成を見、当日午後三時三十三分除幕式を行、高知市に寄贈した次第です。うらさびしい個所に設けず人に人の集まる高知公園（現場から $2\text{ km}$ 程離れて居ます）になぜに建てぬかと

気屋があつたから水銀灯もつけて防犯灯にもなると考えて提案した次第です。

す。又高知で発行されて居る短歌の同人雑誌の名称を33とされたのも面白いことです。  
これは東経百度の赤道上より東北に四十五度の線を引く、即ち極座標を作ったことになる。この直線を絃として日本列島が弓なりに乗っている。

これは東經百度の赤道上より東北に四十五度の線を引く、即ち極座標を作つたことになる。この直線を絃として日本列島が弓なりに乘つてゐる。

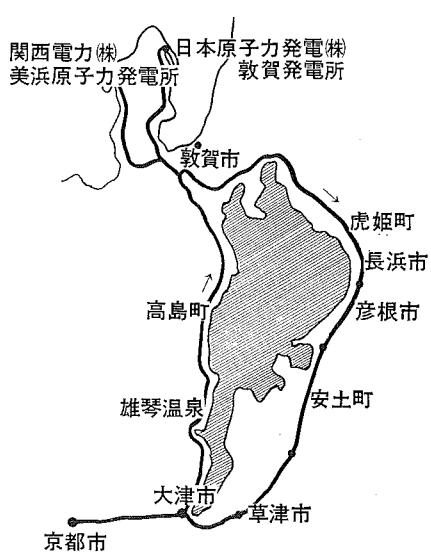
ロータリアンからもいわれ説明はしましたが仲々納得行きかねた次第です。

除幕式に参列された婦人仏教信者から仏教に縁のある数字であります。有難いことである。いかなる動機によりこのヒントを得たかについてお尋ねがありました。京都の三十三間堂、仏の数は三万三千三十三体よりは三の字が二倍あります。又高知で発行されて居る短歌の同人雑誌の名前を33と書きこの

ある屋久島の少し北の海中、東経一三五度〇分〇秒北緯三五度〇分〇秒は兵庫県西脇市。東経一三七度〇分〇秒北緯三七度〇分〇秒は上杉謙信の霜は軍當に満ちて秋氣清との詩で名高い石川県七尾城跡の付近。

四度〇分〇秒は北海道網走付近にあります。東経一四四度四四分四四秒北緯四四度四分四四秒を前記藤波先生にご推挙申し上げたいがオホーツク海中になってしまいます。なお蛇足ながら世界地図を開いて高知市と同類項を少し探しました。がいすれも海中になり残念でした。東経三三度、北緯三三度地中海の南、キプロス島の南、

ーストラリヤポートリンカーネンの西北の海中。  
西經三三度北緯三三度 西洋の海中。  
西經三三度南緯三三度 南大西洋の海中。  
洛友会同窓の諸兄ご賛同を得たなら適當の処に標柱を建てて下さいませんか。



ご厚意とお世話になり、最新の技術革新の現場を見学することが出来、誠に有意義な見学旅行会を催すことが出来た。

(大3) 田中 稔 (大6) 上林  
雄、光野重威、辻 秀男 (大7)  
宮崎佐加枝 (大10) 橋口貞三 (大11)  
森島智雄 (大12) 上尾益次郎  
(大15) 廉田 茂、大島広定 (昭

2) 下村正男(昭3) 太田原隆定  
 辛川武夫、富村精雄、酒井直寿、  
 森 薫(昭4) 国友善五郎、西  
 田忠次(昭5) 伊藤忠雄、井田  
 清、野田忠二郎(昭6) 上西亮二  
 大谷宗太郎、吉田洪二、山本茂雄  
 岡崎二郎(昭7) 尾形 理、青山  
 正次、越智和男、吉田 博、永田  
 良孝(昭8) 西村完三、岡村善勝  
 宮本政季、塙見武夫、山本 茂  
 (昭9) 尾崎 完、高橋光雄、竹  
 中哲哉、西尾信行、野口 一、森  
 島五郎(昭10) 梅本忠夫、中堀孝  
 志、北村芳雄(昭11) 黒田鱗八郎  
 清水治郎 鈴木重次(昭12) 井原  
 九州男(昭13) 大谷泰之、富永  
 清(昭15) 松本清隆、小南光夫  
 (昭16) 岡本 弘、前田藤治、安

## 中部支部例会

中部支部では毎年秋に家族同伴でリクリエーションを行なうのを例としているが、本年は行き先を思い出多い京都に決めた。

10時半、京都駅に集合して、まことに京都電気料金室を訪れたあと、高野橋詰めの大和で鳥養会長、林副会長、山本幹事、大谷先生を囲んで昼食懇親会として始めた。

午後は大徳寺、詩仙堂などの名茶室、名庭園を観賞した。

当日の参加者は家族を含めて20余名であった。参加会員は次の諸氏である。

本多静雄、河津吉兵衛、萩沢英作、宇野茂道、古田久一、川端太郎、秋田清四郎、大杉 幹。

## 十四日会 200回記念

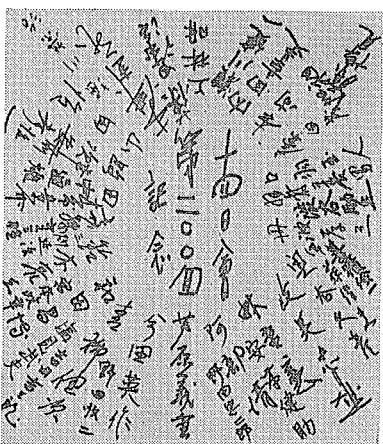
山下耕市、鈴木郁朗。

十月九日「十四日会」の  
第二〇〇回会合を開いた  
参考者は芦原会長、今田  
前会長はじめ阿部林(一  
重)、羽村の各先生方そ  
の他で総員三十七名出  
席の盛会であつた。

「十四日会」は昭和7年に大正14年組の月例午餐会として始められ、

員数も六十二名に達しております。創設以来三十五年の懐旧談に花が咲き有意義な会合となりました。会食後関西電力総合技術研究所及び同電子計算センターを見学して解散しました。(幹事伊藤俊夫)

大正七年卒業五十年記念信奉會  
 (昭30) 竹田正美、松枝克磨、森  
 竹屋秀夫、豊田 実、西村正太郎  
 立石行男(昭17) 池田 豊(昭18)  
 池上淳一、伊原松太郎、川口竜夫  
 佐野博也、近藤文治(昭19) 中川  
 三郎、畑川憲、松岡行雄(昭20)  
 八隅久明(昭21) 大橋徹次(昭22)  
 小杉 昇、大貫良三、山本重俊  
 湯浅定啓(昭23) 井上光生、高橋  
 充夫、松田 功、小林佐久次郎(昭  
 24) 井上 守、岡田 栄、久保隆  
 信(昭25) 宇野敏一、白井右友  
 中島 憲(昭26) 池田栄一、神谷  
 友清、柴田 宏、竹山 宏、杉山  
 和夫(昭27) 和泉孝養、竜沢善信  
 東松孝臣、原 周作(昭28) 猪口  
 敏夫、小森幹男、高谷克巳(昭28新)  
 米一郎、榎原喜忠、黒田重信、中  
 村 靖、市川 哲、大塚克昌(昭  
 42) 板倉秀清、内田雅幸、阪口直  
 史、深尾昌一郎、井上敦之、間宮  
 馨、小林 勝、戸光一、三木理志



京都帝国大学工科大学電気工学科を大正六年および大正七年の卒業生は信友会といふクラス会をつくっているが、この両年度の卒業生は在学中は勿論、卒業後も今まで仲よくつき合っている。いつの頃からか、合体するようになり、少くとも、毎年春秋二回位は集って旧交をあたためているが今年はそれぞれ卒業後、満およそ足かけ五十年になるので、その記念集会を去る十月二十一日、思い出多い宇治の料亭「花屋敷」で開催した。集る者十四名。天ヶ瀬ダムや発電所を見学後、まず物故された恩師難波、青柳、小倉、本野各先生並びに物故同級生諸氏のご冥福を祈って黙禱を捧げ、過去

に年あるので特に痛飲する者もなく、若い時とちがつて色っぽい漫談もなく、閑談消談に時を忘れた。思えばこの半世紀、わが国の大変革をもたらした明治・大正・昭和の三代を、よくここまで生き永らえて、各々その分を尽して来たものと一しお感慨に耽つた。宇治の清流は旧の如くであるが流石五十年の年輪は争えぬ。

同級生とはいながら、理学士として入つて来られた我等の兄妹する上林さんは芳紀正に八十五才、我々より十年以上の年長で、家族構成は子供さん7人、お孫さん9人、曾孫6人で横綱格。父子三代に亘つて当電気科出身である誠やましい家族。全員の子供数平均

## 卒業してから五十年



写真(上)は卒業後五十年の年輪を刻みこまれ、今なおカクシヤクの信友会会員の皆さん(下)は当日参会の会員諸氏の寄せ書き

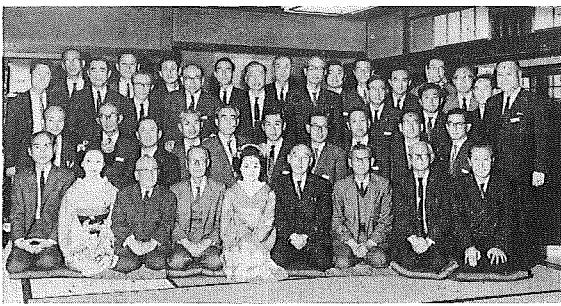
大正七年卒業五十年記念信奉會  
 大正七年十一月一日  
 於宇治花屋敷

## 信友会の記念集会



# 卒業25周年を迎える

## 昭和17年組のクラス会



紅葉は見る去る十一月十二日  
(日) 午後六時半から、南禅寺畔  
「菊水」において、記念の祝宴を  
催した。

多忙中に拘らず、岡本先生・  
松田先生・阿部先生・羽村先生・  
林重憲先生・清野先生・大谷先生  
のご来臨を仰ぐことができ、クラ  
ス生も北は北海道、南は四国に亘  
つて、三十名が参集し、卒業以来  
最も盛会となつた。

会は岡本先生のご発声による乾  
杯に始まり、クラス生の家族を含

めた自己紹介を経て、先生方と膝  
を交えての懇談に入った。なかに  
は卒業以来初めて顔を合わすもの

もあつたが、二十五年の経過を語  
るお互いの髪の薄さや髪の白さに  
苦笑し合いながら、盛んに旧交を  
あたため合つた。その間、祇園の  
綺麗どころの花添えもあって、時  
とともに雰囲気はいやが上にも盛  
り上がり、なかなか名残りは尽き  
なかつたが、漸く冷氣の感じられ  
る午後九時前に、阿部先生のご発  
声で、万才を唱和して宴を閉じた

### 名簿編集に付いてお願ひ

昭和四十三年用名簿編集に

つきましては少しでも正確な  
ものをと心掛けたつもりでお

りますが、まだまだ不備な点  
があり、ご不満の方もいらっしゃ  
るかと存じます。原稿締  
め切り後の訂正が多く校正の

段階で直すようにしたのです  
が、それでも訂正漏れがあつ  
たと思います。

名簿をご覧になつて住所、電  
話番号等に誤りまたは変更が  
ございまれば連絡用葉書を  
同封いたしますので、ご面倒  
でもご連絡下さるようお願い  
いたします。

なお今年は七月末をもつて

締め切りたいと思いますので

変更がございましたら直ちに  
ご連絡下さいそれ以後の分で  
も十月中旬までは初校の段階  
で訂正出来ますが、二校では  
不可能になります。

会員各位のご理解により正  
確なる名簿編集にご協力下さ  
るようお願いいたします。

腕に覚えのあるもの九名が、茨木  
国際ゴルフ場でクラブを振った。  
(浮田記)

### 洛友会皆様へ月刊誌「電気評論」をぜひお手許に

（株）電気評論社が創設されて、はや5カ月、社長に松田長三

郎先生を迎え、社長はじめ異良知氏、林重憲先生ならびに関電  
常務和田昌博氏の指導のもとに、学会、電力会社、電機メーカー  
など各界の絶大なご支援をうけて月刊誌「電気評論」は着々と  
基礎を固めつつあります。

秒進分歩の技術革新時代の今日にもっともふさわしい月刊誌  
となり、洛友会の皆様のご期待にこたえるべく、編集部一同、  
日夜努力致しております。

すでに11月号を復刊創刊号として発刊以来、毎月順調に出版  
致しております。僅小ですが在庫もございますので未購読の方  
はぜひともお申込みを賜りますようお願い申し上げます。

月刊誌「電気評論」本文百二十頁・定価二百五十円  
☆11月号(復刊創刊号)・特集・万国博の電気設備

☆12月号・特集・サイリスタ  
☆1月号(本文のみ 本文三百頁・定価六百円)  
☆2月号・特集・42年における電力各社の電力技術革新のあゆみ  
☆3月号・特集・配電近代化

株式会社電気評論社編集部  
京都市左京区吉田本町

電話(70)二五八二番  
振替口座京都九九〇六番  
前金概算一五〇〇円  
6ヵ月前金概算三〇〇〇円

### 電気評論購読料

京都市左京区吉田本町  
京都大学工学部電気工学科教室内

洛友会

事務局

京都市左京区田中大堰町四九  
財團法人 應用科学研究所内

会員各位のご理解により正  
確なる名簿編集にご協力下さ  
るようお願いいたします。